



〈緑に開かれた
交流スペース〉

〈エントランス 夕景〉

熊野古道なかへち美術館は、昨年からの改修工事を無事に終え、今年10月10日には開館15周年を迎えます。これを機に、国際的に活躍する写真家の鈴木久雄さんに、新しくなった美術館を撮影していただき、その建築写真2点を絵はがきにしました。また所蔵品の中から、当地出身の日本画家、野長瀬晩花(1889~1964)の特徴的な作品2点、《新芽ふく頃》と《虹と羊飼いの》絵はがきも新たに作成しています。撮った写真をすぐにメールで送ることのできる便利な世の中ですが、当地、当館の思い出を、絵はがきに記して伝えたりするのも、たまにはいかがでしょうか。眺めのいい交流スペースでごゆっくりどうぞ。

ORANGE vol.17で田辺市立美術館のミュージアムグッズをご紹介しましたが、今回は熊野古道なかへち美術館のグッズをご紹介します。熊野古道なかへち美術館ならではの絵はがきやマグネットなどのグッズを作成しています。ご観覧の際には、受付横のグッズ販売コーナーもぜひご覧ください。「グッズ購入だけ…」や、「美術館の建築を見たい」等のご来館も歓迎しています。(展覧会をご覧にならない場合の入館は無料です。)



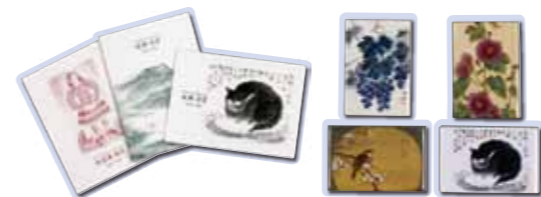
通信販売も行っていますので、熊野古道なかへち美術館までお問い合わせください。

絵はがき：100円
渡瀬凌雲《河口》、野長瀬晩花《女》、雑賀清子《秋ののげし》など熊野古道なかへち美術館が収蔵する名品の他に建築写真もあります。全24種類。(お得な絵はがきセットもあります。)

★開館15周年となる10月10日からの「妹島和世+西沢立衛/SANAA展」より新しい絵はがきも販売します。詳しくは本紙折込ページをご覧ください。

ポストイット：400円
渡瀬凌雲《魚磯》、《猫》、野長瀬晩花《スペインの田舎の子供》の3種類。忘れるといけない予定をメモして貼ったり、家族への伝言などにも使える便利な付箋です。

マグネット：500円
渡瀬凌雲《梅花小禽》、《猫》、《葡萄》、野長瀬晩花《立葵》の4種類。



絵画と出会う「この一点!」

★小企画展：生誕120年 玉村方久斗
会期：12月7日(土)~1月26日(日)



玉村方久斗(秋苑之図) 1932(昭和7年) (公財)脇村奨学会蔵

玉村方久斗(1893~1951)は京都に生まれ、大正の初めに日本画家として頭角を現すと間もなく東京に移り、前衛的な美術運動に参画して多方面に才能を発揮した後、昭和期から再び独自の作風を深めていった画家です。しかし、そうした芸術の軌跡の全容がうかがえるようになり、評価が高まったのは、ようやく2007年から翌年にかけて神奈川県立近代美術館と京都国立近代美術館で初めての回顧展が開催されてからのことです。

現在(公財)脇村奨学会の所蔵となり、当館に寄託されている方久斗の作品約30点は、脇村禮次郎氏(田辺市出身の実業家：1904~1988)が収集していたものです。ここに図版を掲載する作品もその内の一点で、方久斗の充実していた時期の繊細な感覚と筆致をよく伝える秀作です。脇村氏の慧眼もよく伝えます。(学芸員 三谷 渉)

田辺市立美術館へのきもち⑩

私は田辺市立美術館の電気管理を担当させていただいています。数年前に電気管理の修業を終えて田辺に帰郷し、現在の業務に携わるようになりました。公園の中にたたく美術館をはじめて訪れたとき、静かでぬくもりがあり、まるで祖父母の家に遊びに来たような印象を受けました。美術館という敷居が高いように思われがちですが、田辺市立美術館はいつも温かく迎えてくれます。今では業務で訪れたときに、スタッフの方から展覧会の情報をお聞かして、鑑賞の計画を立てるのを楽しみにしています。

私は美術館めぐりが好きで、各地の展覧会によく足を運んでいます。心をニュートラルにして作品に接するのが本来の鑑賞だと思うのですが、私はなかなかそういってことができません。ふと作品を観ている視線が反射して、自分の姿をまじまじと見つめている錯覚に陥ることがあります。そのときの自分の精神状態が鑑賞に反映してしまうという、鑑賞者としては失格だと思うのですが、それが私流の楽しみ方で、自身の心を量るバロメーターに



受電盤の電流に異常がないかをチェックしています

ています。心が疲れているときには作品からパワーを分けてもらい、元気な時には作品に問答を挑んでいます。作品の中には何十年何百年と人々に愛され、メッセージを送り続けているものがたくさんあります。為政者が代わり世の中のシステムが変わり、人々の価値観が変わっても、心に響く力を持っているということは驚くべきことだと思います。田辺市立美術館で鑑賞した作品のなかで、特に私の心に残っているのは、昨年開催された「画家とパレット」展で観た三岸節子の《祝祭》です。白く乾いた大地に舞う女性と馬の姿がやさしく描かれており、雄大な大地、自然が与えてくれる豊かな恵み、自然への畏敬と感謝が感じられる作品でした。あるときスタッフの方とお話をさせていただきました。「今、だけのことを考えて仕事をするのではなく、規模では他の美術館に劣ってしまうかもしれないけれども、どこから来た人が見ても、あるいは未来の人が振り返って見ても通用する内容の活動をしたい」とおっしゃっていました。鑑賞するときには、作品の歴史的な背景を大切にすることも教えていただきました。小中学生を対象とした鑑賞の指導などもされていて、受験勉強ではない真の学びによって視野の広い子どもたちがこの田辺の地で育っています。高い志と地域に根差した取り組みに心から敬意を表します。

さて現代社会においては、電気はなくてはならないものであるにもかかわらず、その存在を忘れがちになっています。スイッチを押した瞬間、秒速30万kmの速さで発電所から私たちのもとに電気が届けられますが、その道のりは長く険しいものです。一昨年9月の台風12号の襲来時は、電柱が倒壊し長時間の停電がまさに間近で起こりました。電気の通り道をきちんと整備し、停電や漏電が起こらないようにしておくのが私の役目です。これからも美術館運営の支えのひとつとなれるよう業務に努めていく所存です。美術館スタッフのみならずの変わらぬご理解、ご協力をよろしく願いたします。

(中平電気管理事務所 電気管理技術者 中平 仁司)

編集後記

お読みいただきありがとうございます。私、今号が無事発刊できるのか… すいぶん心配しました。なぜなら、メ切間際になって中々、原稿がそろわなかったからです。各記事の担当者が様々な仕事に追われたためです。ですが、それくらいこの秋から充実した展覧会が目白押しという事です。私もわくわく… 楽しみにしています。今号のアンケートにお答えいただくと、抽選で5名の方にサイン入りの絵はがきを進呈します。また前号につけた、感想を記入してお持ちいただくと無料でご観覧いただけるカードも来年3月まで有効です。ぜひご投稿ください。(本館 m.m.)

ORANGE Vol.19



木村兼葎堂「秋山訪友図」

作品紹介 木村兼葎堂《秋山訪友図》

池大雅以降の上方文人画壇を引っ張っていたのは木村兼葎堂でした。商業のかたわら中国の文物を蒐集、研究していた彼のもとには、そのほう大な情報をもとに、結果彼の自宅は中国文化を学ぶためのサロンとして開放されることとなったのです。十時梅屋や岡田米山人などの上方を代表する画家だけでなく、谷文晁や頼山陽など後の江戸文人画壇を率いる画家たちもこの兼葎草堂によく足を運びました。

田辺市立美術館蔵

本図は画面の緑色が強いため判別しにくいのですが、代赭と呼ばれる朱や、藍、淡緑などがふんだんに施されており、元々はかなり色鮮やかな作品であったことがうかがえます。中国の文物を蒐集、研究していた兼葎堂のもとには、各地から多くの文人墨客が集まってきたので、自身の画技や表現方法にもその影響を受けることが多く、兼葎堂の画風からは上方出身の画人よりもより全国各地の画人たちの交流の深さをつかがうことができます。

(主任 辰巳 亮)

50円切手
646-0015

和歌山県田辺市たきない町24-43

田辺市立美術館 ORANGE Vol.19 アンケート係 行

ご住所	〒
お名前	電話番号

田辺市立美術館NEWS ORANGE Vol.19

編集・発行：田辺市立美術館／熊野古道なかへち美術館
発行年月日：平成25年10月1日

田辺市立美術館

〒646-0015 和歌山県田辺市たきない町24-43
TEL.0739-24-3770 FAX.0739-24-3771
http://www.city.tanabe.lg.jp/bijutsukan/

田辺市立美術館分館
熊野古道なかへち美術館

〒646-1402 和歌山県田辺市中辺野路近露891
TEL.0739-65-0390 FAX.0739-65-0393
http://www.city.tanabe.lg.jp/nakahechibijutsukan/

妹島和世+西沢立衛/SANAA展

熊野古道なかへち美術館の開館15周年を記念して、妹島和世(せじま・かずよ)+西沢立衛(にしざわ・りゅうえい)/SANAA(サナア)展を開催します。

SANAAは、S(妹島)and N(西沢)and A(アソシエイツ=所員たち)の頭文字をとった建築家ユニットの呼び名です。このSANAAが最初に手がけた美術館となる当館は、当地ゆかりの二人の画家(野長瀬晩花・渡瀬凌雲)の作品を新しい空間で見せ、美術を通してここが人々の交流の場となるようにとの構想から設計され、1998年10月、当時人口約4,000人だった中辺路町の町立美術館として開館しました。2005年には市町村合併により田辺市立美術館の分館として新たなスタートをきり現在に至ります。

この15年の間に、SANAAの建築は世界中で見られるようになりました。とりわけ美術館を多く手がけてきたことは、SANAAの特筆すべき点といえるでしょう。ガラスを多用し光を取り込む手法。透明感やしなやかさを保持しつつも大胆な造形を持つ作品。意表をつく空間のとらえ方により生まれる作品の数々は人々を魅了してやみません。2010年には建築界のノーベル賞といわれるプリツカー賞を受賞しています。

かつて専門家の間でのみ語られがちだった建築という分野も、この間に新しいファン層が生まれ、多くの人が建築のもたらす環境や空間、その芸術性や美を味わい楽しむようになりました。開館15周年の節目に、この展覧会によって、改修工事を経てリニューアルした当館を建築作品として改めて見直す機会としたいと思います。また、当館を一例としながらSANAAがこの間に残した足跡も建築模型や図面等の資料とともに紹介します。なお、事前の申込みが必要で、年齢や人数に制限はありますが、会期中に妹島和世、西沢立衛の二人によるミュージアムトークや、美術館を考えるワークショップも開催します。

建築作品への理解と関心が一層高まることを期待しています。

(学芸員 山本 泰代)

風景画家 奥村厚一



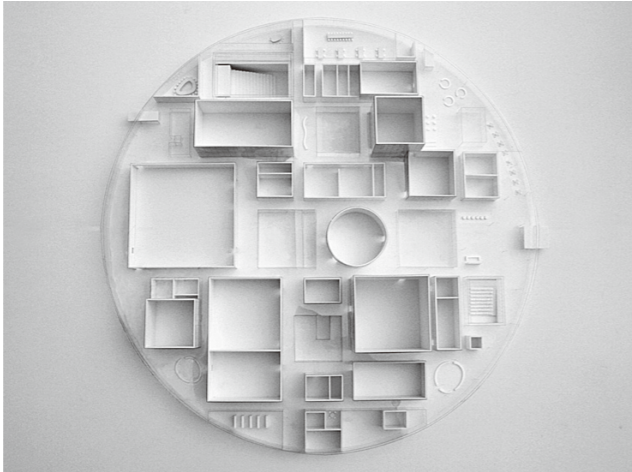
INFORMATION

★特別展：「生誕110年記念 奥村厚一展」
会場／田辺市立美術館
会期／平成26年2月8日(土)～3月23日(日)
開館時間／午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日／毎週月曜日・2月12日(水)
主催／田辺市立美術館
観覧料／600円(480円)・学生及び18歳未満の方は無料
※()内は20名様以上の団体割引料金です。

関西文化の日

11月16日(土)・17日(日)は関西文化の日です。この2日間は田辺市立美術館・熊野古道なかへち美術館ともに観覧料を無料にします。イベントも開催しますので、ぜひこの機会にお越しください。

田辺市立美術館	熊野古道なかへち美術館
16日(土)	16日(土)午後1時～
17日(日)	17日(日)午後2時～
	学芸員による展示解説会を行います。



〈金沢21世紀美術館模型俯瞰図〉　photo by SANAA

INFORMATION

★特別展：「妹島和世+西沢立衛/SANAA展」
会場／熊野古道なかへち美術館
会期／平成25年10月10日(木)～12月23日(月・祝)
開館時間／午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日／毎週月曜日(但し10月14日・11月4日・12月23日は開館)
10月15日(火)・11月5日(火)
主催／熊野古道なかへち美術館
観覧料／250円(200円)・学生及び18歳未満の方は無料
※()内は20名様以上の団体割引料金です。

○11月2日(土)午後1時30分～　ミュージアムトーク
妹島和世、西沢立衛お二人を招いてミュージアムトークを開催します。
○11月16日(土)午後1時～　ワークショップ
SANAA所属の建築家とワークショップを行います。
★いずれも申込が必要です

REPORT

奥村厚一は生涯に亘って風景を制作の主題とした画家です。1904(明治37)年、京都市に生まれ、京都市立絵画専門学校に学んだ後、同校研究科に進むかわら奥村は西村五雲に師事して、京都画壇の伝統的な写生を徹底して学びました。昭和初期から官展でその風景表現が認められ、1946(昭和21)年の第2回日展で特選を受賞した〈浄晨〉(東京藝術大学蔵)は、雪の積もる木々を冷気の中に静謐さや清浄感をもって描き出した、この時期を代表する作品となっています。

しかしその後、1948(昭和23)年に山本丘人や上村松篁らとともに「創造美術」(現在の創画会)を結成して官展から離れ、新しい日本画の表現を切り拓く運動に身を投じました。自身の表現を厳しく問い直す機会を得た奥村は、それまでの繊細で清澄な画面から一転して、自然の生命感やリズムを力強く捉えて形象化する作品を発表するようになります。図版の〈オランダ風景〉は前年のヨーロッパ滞在の経験も反映した特徴的な作品です。

こうした作風の変化はありましたが、自然に対する親しみと観察から出発し、写生からその本質を見据えて真摯に向き合う姿勢を奥村は一貫しました。上記のような代表的な作品とともに、各地のスケッチなどもあわせて展示して、その芸術を振り返る展覧会を来年2月から3月にかけて開催します。

(学芸員 三谷 渉)

REPORT

5/11(土)・6/8(土) 熊野古道なかへち美術館　5/18(土)・6/15(土) 田辺市立美術館

今年の4月から7月にかけて開催した、熊野古道なかへち美術館の開館15周年を記念する特別展「渡瀬凌雲展」は、新出の資料などととも凌雲の画業を改めて振り返るものでした。展覧会は、田辺市立美術館と熊野古道なかへち美術館の両館を会場とし、前期と後期あわせて118点の作品を展観しました。各会期中、作品をよりよく知って頂くために両館で1時間余りの展示解説会を開きました。ときには思いがけない質問をいただくこともあり、こちらも新たな調査課題を得る機会となりました。今後もこのような解説会を開催していきたいと思っています。作品を囲んで参加された方々との意見交換の場ともなりますので、また多くの方に足を運んでいただければと願っています。

(学芸員 山本 泰代)

REPORT

8/17(土)「**工芸、その造形に日本のこころをさぐる**」 9/14(土)「**日本の工芸の現在を考える**」

今夏、日本の近代から現代にかけての工芸表現を代表する作家、50人の作品による展覧会を開催し、会期中に二回の講演会を行いました。

8月に講師としてお招きしたのは、染色家で自身の作品も出展されている福本繁樹さんでした。制作者としての視点から、工芸のみならず日本の造形表現全般に亘っての考察を披瀝していただき、たいへん興味深い内容でした。この日は近年のブックアートの作品も持参してくださり、講演後に参加いただいた方々と鑑賞する時間ももてました。

9月にお越しいただいたのは、作品の所蔵先であり、この展覧会の主催者の一方である東京国立近代美術館の工芸課長、唐澤昌宏さんでした。「工芸」の示す意味を改めて考えなおしてみることから、個々の作家の制作の思考まで、ざっしりと内容の詰まった講演でした。

美術館の教育活動

美術館の活動は、その根幹となる「調査・研究」、それに基づく作品及び資料の「収集・保存」、そしてそれらから得たものを社会に還元する「教育・普及」、の3つに大きく集約できるかと思います。これまでの美術館や博物館は「調査・研究」と「収集・保存」に重点が置かれてきましたが、近年は遅れてきた「教育・普及」活動の充実に力を入れる館も増え、専門の職員が配置されることも増えてはなくなってきました。4年前には博物館法施行規則が改正され、昨年度から学芸員の資格取得に「博物館教育論」2単位が必修になるなど、「教育・普及」の機能はますます重視されるようになってきています。

当館でも美術館の教育活動の基本となる、作品を見せること(展示一展覧会)から様々な展開を図っています。上欄の「REPORT」でも報告している解説会や講演会の開催、図録や冊子などの刊行(この「ORANGE」の刊行も重要なものと考えています)といった従来からの活動に加え、学校教育と連携した内容も最近が増えてきています。美術館の見学を教育計画のなかに組み込む学校が増えたことが一番の要因ですが、この経験の蓄積が、学校の教員と美術館の職員双方のノウハウやスキルの向上に結びつ



田辺市立近野小学校の児童が「渡瀬凌雲展」を見学に訪れたときの様子

いて、児童、生徒たちの学習に良い効果を与えているように思います(写真上)。まだまだ課題もたくさん抱えていますが、学校側から様々な提案や要望をいただくことが増えたことも成果の一つで、今後の活動に活かしたく思っています。

また実習や研修の受け入れを通じて、専門的な教育活動を行うことができるのも、美術館の特徴の一つです。今年度も大学生からの申し込みを受けて、実習を行っています(写真左)。

当館のように、教育・普及活動を専門とする職員を配ることが難しい小規模な美術館にあっては、学校教育機関や他の社会教育機関との連携によって、その内容を広げてゆくことが現実的で最善ではないかと考えています。今後もその進展を探りたいと思います。

(学芸員 三谷 渉)



田辺市立美術館での解説会の様子
作品を前にして感想や質問もたくさんいただきました



福本さん(写真左)、唐澤さん(写真右)ともに多くの資料を用意して「工芸」をめぐる様々な話題について話してくれました

作家と研究者、それぞれの立場からの考えをお聞きしましたが、ともに日本の工芸が世界に発信すべき独自の内容をもった芸術表現であることを強調されていたのが印象的でした。

(学芸員 三谷 渉)



田辺市立美術館広報紙 ORANGE vol.19

ア　ン　ケ　ー　ト

1. どこで本紙を手に入れましたか

田辺市立美術館 ・ 熊野古道なかへち美術館

その他()

2. 「ORANGE」を読むのは何回目ですか

初めて ・ 2～3回目 ・ 5回程度 ・ 毎号見ている

その他()

3. 印象に残った記事がありましたら、その記事のタイトルとご感想をお聞かせください

タイトル()

ご感想

4. 「ORANGE」に対するご意見がありましたらご自由にお書きください

5. 差し支えなければ年齢と性別を教えてください

()才 (男性 ・ 女性)

～アンケートへのご協力をお願いします～

田辺市立美術館では年2回、春と秋に広報紙「ORANGE」を発行して美術館の活動をお伝えしています。

皆様のご意見をいただいて、より良い紙面作りに活かしたいと考えています。趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。

アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で5名様に「妹島和世・西沢立衛お2人のサイン入りポストカード」をプレゼントします。

下のはがきにアンケート・ご住所・お名前をご記入の上、田辺市立美術館受付の回収BOXに入れていただくか、郵送してください。締切は、平成25年12月31日(当日消印有効)です。発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

※ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送のみに使用し、「田辺市個人情報保護条例」に基づいて適切に管理いたします。

※ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送のみに使用し、「田辺市個人情報保護条例」に基づいて適切に管理いたします。

REPORT

田辺市立美術館広報紙 ORANGE vol.19

アンケート

1. どこで本紙を手に入れましたか

田辺市立美術館 ・ 熊野古道なかへち美術館

その他()

2. 「ORANGE」を読むのは何回目ですか

初めて ・ 2～3回目 ・ 5回程度 ・ 毎号見ている

その他()

3. 印象に残った記事がありましたら、その記事のタイトルとご感想をお聞かせください

タイトル()

ご感想

4. 「ORANGE」に対するご意見がありましたらご自由にお書きください

5. 差し支えなければ年齢と性別を教えてください

()才 (男性 ・ 女性)

～ ご協力ありがとうございました～